

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成30年4月27日
【事業年度】	第25期（自平成29年2月1日至平成30年1月31日）
【会社名】	株式会社丸千代山岡家
【英訳名】	Maruchiyo Yamaokaya Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山岡 正
【本店の所在の場所】	札幌市東区東雁来7条1丁目4番32号 （上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。）
【電話番号】	011（781）7170（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 荒谷 健一
【最寄りの連絡場所】	茨城県つくば市小野崎127番地1
【電話番号】	029（896）5800（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 荒谷 健一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
決算年月	平成26年 1月	平成27年 1月	平成28年 1月	平成29年 1月	平成30年 1月
売上高 (千円)	8,758,519	9,007,487	10,068,512	11,110,958	12,134,238
経常利益 (千円)	235,662	304,800	539,750	455,806	301,515
当期純利益又は当期純損失 ( ) (千円)	88,128	114,718	259,890	129,532	15,887
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	291,647	291,647	291,647	291,647	291,647
発行済株式総数 (株)	823,000	823,000	2,469,000	2,469,000	2,469,000
純資産額 (千円)	1,132,516	1,226,633	1,468,959	1,562,978	1,511,472
総資産額 (千円)	4,406,269	4,519,887	4,913,780	5,144,367	5,466,550
1株当たり純資産額 (円)	1,387.36	503.98	603.57	642.20	621.04
1株当たり配当額 (円)	20	20	14	14	14
(うち1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円)	108.63	47.13	106.78	53.22	6.53
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	25.5	27.1	29.9	30.4	27.6
自己資本利益率 (%)	-	9.8	19.3	8.5	-
株価収益率 (倍)	-	12.0	12.7	22.2	-
配当性向 (%)	-	14.1	13.1	26.3	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	613,051	880,558	834,311	375,972	670,901
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	12,701	209,541	640,525	923,892	680,288
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	620,105	314,924	195,876	322,409	156,425
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	318,206	674,299	672,208	446,697	593,736
従業員数 (人)	225	244	294	334	398
(外、平均臨時雇用者数)	(845)	(851)	(973)	(982)	(1,038)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第21期は潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失のため、第22期は希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため、第23期、第24期及び第25期は潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第21期及び第25期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失のため記載しておりません。

4. 従業員数は就業人員数であり、平均臨時雇用者数は( )内に外書きで記載しております。

5. 当社は、平成27年9月28日開催の取締役会決議に基づき、平成27年11月1日付で株式1株につき3株の株式分割を行っております。そのため、第22期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益金額及び1株当たり純資産額を算定しております。

## 2【沿革】

### (1)当社の前身

当社の前身は、現代表取締役社長山岡正が昭和55年2月東京都江戸川区に(有)丸千代商事を設立し、弁当のF C店を開業したことに始まります。その後、近隣に弁当店が開業し始め競合が激しくなり、他の事業を模索していたところ、ラーメン店の経営を思いつき、昭和58年に「ラーメン日本一」の屋号でラーメン事業を開始、昭和58年4月には株式会社へ組織変更致しました。昭和63年9月には現在の山岡家ラーメンの原型となる「ラーメン山岡家」を茨城県牛久市に開店致しました。事業が軌道に乗り、平成4年5月には札幌市中央区にすすきの店、同年12月には南2条店を開店致しましたが、北海道での本格的な事業展開を行うため、平成5年3月、札幌市中央区に(株)山岡家を設立致しました。

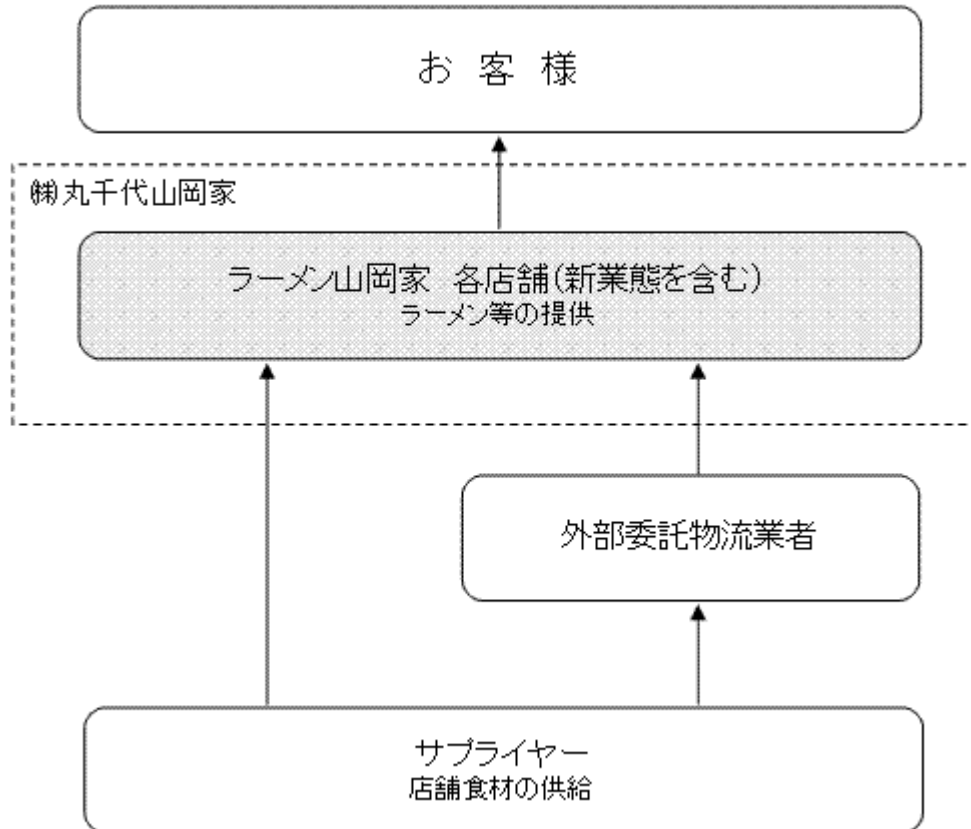
### (2)山岡家設立以降の事業内容の主な変遷

年月	事項
平成5年3月	札幌市中央区に(株)山岡家を設立し、(株)丸千代商事からすすきの店、南2条店を譲り受けて営業開始
平成9年1月	タレ製造部門を分離し、100%子会社の(有)山岡家スープを設立
平成9年2月	食材等仕入部門を分離し、100%子会社の(有)サンシンフーズを設立
平成11年4月	栃木県の第1号店舗として小山市に小山田間店開店
平成12年7月	本社を札幌市東区東雁来7条1丁目4番19号に移転
平成14年2月	(株)丸千代商事を吸収合併し、(株)丸千代山岡家に商号変更
平成15年2月	子会社の統合を行い、(有)サンシンフーズが(有)山岡家スープを吸収合併
平成15年4月	(有)サンシンフーズを株式会社に組織変更
平成15年7月	埼玉県の第1号店舗として春日部市に春日部店開店
平成15年8月	千葉県の第1号店舗として柏市に柏店開店
平成15年12月	群馬県の第1号店舗として太田市に太田店開店
平成16年11月	(株)サンシンフーズを吸収合併
平成17年2月	東京都の第1号店舗として西多摩郡瑞穂町に瑞穂店開店
平成17年7月	宮城県の第1号店舗として名取市に名取店開店
平成17年8月	静岡県の第1号店舗として富士市に富士店開店
平成17年11月	福島県の第1号店舗としていわき市にいわき店開店
平成18年2月	ジャスダック証券取引所へ上場(証券コード3399) 神奈川県第1号店舗として厚木市に厚木店開店
平成18年5月	岐阜県の第1号店舗として瑞穂市に岐阜瑞穂店開店
平成18年8月	山梨県の第1号店舗として笛吹市に笛吹店開店
平成19年2月	山形県の第1号店舗として山形市に山形青田店開店
平成19年6月	愛知県の第1号店舗として豊橋市に豊橋下地店開店
平成19年10月	三重県の第1号店舗として桑名市に桑名店開店
平成21年4月	東京都23区内の第1号店舗として新宿区に高田馬場店開店
平成21年9月	茨城県つくば市に、新業態「とんかつ処かつ千代つくば店」開店
平成21年12月	茨城県水戸市に水戸城南店開店により、ラーメン山岡家100店舗達成
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)へ株式を上場
平成22年10月	大阪証券取引所(JASDAQ市場)、同取引所へラクス市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)へ株式を上場
平成22年11月	岩手県の第1号店舗として盛岡市に岩手盛岡店開店
平成22年11月	秋田県の第1号店舗として秋田市に秋田仁井田店開店
平成23年3月	FC契約による大阪王将業態の第1号店舗として、札幌市に大阪王将北9条店開店
平成23年8月	青森県の第1号店舗として弘前市に弘前店開店
平成23年9月	富山県の第1号店舗として高岡市に高岡店開店
平成23年10月	石川県の第1号店舗として金沢市に金沢森戸店開店
平成23年10月	兵庫県の第1号店舗として明石市に明石店開店
平成23年11月	大阪府の第1号店舗として岸和田市に岸和田店開店
平成23年12月	京都府の第1号店舗として八幡市に京都八幡店開店
平成23年12月	福岡県の第1号店舗として北九州市に北九州店開店
平成24年10月	熊本県の第1号店舗として熊本市に熊本店開店
平成24年10月	FC契約によるコマダ珈琲業態の第1号店舗として、茨城県つくば市に珈琲所コマダ珈琲店つくば店開店
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場
平成28年11月	茨城県土浦市に、新業態「極煮干し本舗荒川沖店」開店
平成29年3月	茨城県つくば市に、新業態「極味噌本舗桜土浦インター店」開店

### 3【事業の内容】

当社は、直営によるラーメン専門店「ラーメン山岡家」を運営するラーメン事業を主として行っており、平成30年1月31日現在、153店舗（新業態を含む）を北海道、関東、東北、東海地区の主要幹線道路沿いを中心に、全店舗直営店24時間営業を基本として出店しております。当社が多店舗展開を推進するにあたり、直営店を基本としてきた理由は、一定の品質・サービス・清潔さの水準を全店ベースで維持・管理するとともに、店舗のスクラップ・アンド・ビルドを実施できることによるものであり、今後も引き続き事業の拡大に取り組む方針であります。

〔事業系統図〕



#### 4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

#### 5【従業員の状況】

##### (1)提出会社の状況

平成30年1月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
398(1,038)	40.5	7.5	4,114,355

(注)1.従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマーを含みます。)は年間の平均雇用人数(週40時間換算)を( )内に外数で記載しております。

2.当期中において、従業員64名が増加しました。これは、新規出店に対応するため従業員数を増加したものです。

##### (2)労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当事業年度におけるわが国経済は、全国的な景況感向上を背景に、企業業績や雇用環境は緩やかな回復基調にあると思われまふ。また世帯所得の改善も見られ、個人消費は総じて底堅い動きが続いていると考えられます。しかしながら、アメリカやヨーロッパの政治リスクや経済動向、中国や新興国経済の成長鈍化懸念、アジアでの地政学的リスクなど世界各地で様々な不安要素を抱えており、景気の先行きにつきましては依然として不透明な状況のまま推移しております。

外食産業におきましては、消費者の節約・低価格志向などの価格重視の考えや、より良いものを求める二極化もより顕著になっている状況で、それらの複合的な要因を背景とした他業種企業間の競合もより激しさを増しております。またサービス業全般で労働需給の逼迫に伴う人件費や求人費用の増加や物流コストの上昇が大きな課題となっており、経営環境は依然として厳しい状況で推移しております。

このような状況下、当社では「人の力で未来を切り拓く」という全社スローガンのもと、現在抱えている課題を社内の人材を活用して解決すべく様々な施策を実施してまいりました。当事業年度におきましては店舗QSC（商品の品質、サービス、清潔さ）の向上、スタンダードオペレーションの確立、人材の確保と育成を最優先課題といたしました。なお、当事業年度の新規店舗展開は北海道地区4店舗、関東地区4店舗、東海地区に1店舗、東北地区に1店舗の出店を行いましたが、6店舗の閉店（移転、業態転換含む）を行い、当事業年度末の店舗数は153店舗となりました。

売上高につきましては、お客様に選んでいただき満足していただける店舗作りを目的として、期間限定メニューの定期的発売、メールマガジンを中心としたモバイルコンテンツの活用、最近ではSNSを利用した新店オープンや新商品販売のご案内等のブランディングによる来店動機喚起、更にQSC（商品の品質、サービス、清潔さ）向上を目的として従業員トレーニングを継続して行い、山岡家ブランドの認知度向上及び売上計画の達成、並びに収益力強化に向けた販売促進施策を行いました。また北海道地区において2店舗の店舗リニューアルを行い、お客様の滞在満足度及び視認性向上など図りました。新規出店が10店舗となり閉店は6店舗ありましたが、既存店を中心に売上は好調に推移し計画を上回りました。

コスト面につきましては、原価は厳格なロス管理を行っておりますが、天候の問題などによる一部食材単価の上昇がありました。人件費につきましては適切なワークスケジュール管理を行っておりますが、全国的な人材不足感が非常に強く、断続的な時給上昇や求人費用の増加が続いております。またエネルギーコストにつきましては、原油先物価格上昇の影響によりガス単価が大幅に上昇しております。その他、消耗品費や衛生費などその他コストにつきましても、引き続き効率化を図っておりますが、人件費を始めとして各種コストは増加傾向にあり、販売費及び一般管理費は計画を上回ることとなりました。

その結果、当事業年度の売上高は12,134,238千円（前年同期比9.2%増）、営業利益は285,204千円（前年同期比33.6%減）、経常利益は301,515千円（前年同期比33.9%減）となりました。また、特別損失において、12店舗の減損処理を行ったことなどから固定資産除却損・減損損失など255,910千円を計上したことにより、当期純損失は15,887千円（前年同期は129,532千円の当期純利益）となりました。

#### (2) キャッシュ・フロー

当事業年度における現金及び現金同等物は、前事業年度末と比較して147,039千円増加し、当事業年度末は593,736千円となりました。当事業年度中におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### 当事業年度のキャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー	670,901千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	680,288千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	156,425千円
現金及び現金同等物の期末残高	593,736千円

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において営業活動により得られた資金は、670,901千円（前年同期比78.4%増）となりました。これは主に、税引前当期純利益45,745千円に対して減価償却費401,244千円となりましたが、減損損失が195,297千円、法人税等の支払が100,037千円となったことなどによるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において投資活動により使用した資金は、680,288千円（前年同期比26.4%減）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出が36,009千円、店舗の開設等による有形固定資産の取得のための支出が562,251千円あったことなどによるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において財務活動により得られた資金は、156,425千円（前年同期比51.5%減）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が740,480千円に対して、新規の長期借入れによる収入が700,000千円、新規の社債の発行による収入が344,194千円、社債の償還による支出が65,000千円あったことなどによるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

該当事項はありません。

### (2) 受注実績

該当事項はありません。

### (3) 販売実績

当事業年度における販売実績を都道府県別に示すと、次のとおりであります。

	当事業年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)	
	売上金額(千円)	前年同期比 (%)
ラーメン事業		
北海道	3,655,100	114.1
茨城県	1,561,744	109.2
栃木県	771,641	112.7
埼玉県	1,168,144	107.4
千葉県	1,208,806	105.0
群馬県	709,764	110.8
東京都	118,397	103.4
宮城県	256,973	103.2
静岡県	581,623	104.7
福島県	209,254	103.7
神奈川県	273,089	106.7
岐阜県	93,191	99.7
山梨県	245,080	104.6
山形県	62,956	102.8
愛知県	449,993	105.8
三重県	85,125	107.9
長野県	190,766	152.0
岩手県	74,826	106.5
秋田県	81,879	114.8
青森県	84,419	145.2
石川県	24,679	52.1
兵庫県	61,118	107.4
大阪府	17,575	42.3
福岡県	45,483	112.5
その他	102,602	78.3
合計	12,134,238	109.2

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 経営方針

当社の経営理念は、「食を通じて、人と地域社会をつなぐ企業へ 全てのお客様に喜んでもらい、「お客様」「社会」「社員」に必要とされる企業であり続ける」であります。

当社はこれまで、「ラーメンでお客様に喜んでもらう」を経営理念とし、ラーメン山岡家を中心とした店舗展開を行ってまいりました。今後は、ラーメンを始めとして『食』に関わる企業として発展していくために、創業当時から守ってきました経営理念をラーメン山岡家の事業理念とし、今後は『食』を通じて「地域貢献」を掲げ、納税や雇用の創出など様々な形で地域社会の発展に貢献し、地域に必要とされる企業を目指していきたくと考えております。

また、この経営理念と合わせて「行動指針」「8つの使命」を策定しております。経営理念を実現するために、従業員が自ら行動する上での指針や使命としております。

#### (2) 経営戦略

今後も、ラーメンは味が第一であるとの認識により、商品の維持管理とサービスレベルを均一化するために従来どおり直営店舗での営業にこだわり、出店方針は原則として郊外型を主体とし、一定数以上駐車スペースを確保できる幹線道路に面した立地としております。更に郊外から都心への展開も可能な業態開発を行っております。今後は、日本全国の幹線道路沿いや繁華街に、ラーメン業態を始めとした当社の店舗が必ず存在するような事業の拡大を実現するとともに、効率的な経営を行い企業価値の拡大を図りたいと考えております。

#### (3) 経営環境及び対処すべき課題

わが国経済は、緩やかな回復基調となっておりますが、欧米や新興国の地政学・経済リスクなど様々な世界情勢動向などもあり、景気の先行き感はまだ不透明な状況となっております。

外食業界では、同業他社との競合、物流コストの上昇、サービス業全般での労働需給逼迫に伴う人件費や求人費用の上昇など、依然として厳しい環境が続くものと考えております。

このような状況下で、当社の対処すべき課題は、以下のとおりであると考えております。

##### 接客スタンダードオペレーションの向上、店舗マネジメント効率化の向上について

当社は、今後もお客様のニーズに対応し、ご満足いただける商品・サービスを継続的に提供していくために、QSC（商品の品質・サービス・清潔さ）を常に追い求めてまいります。また、同業他社との激しい競合のなかで、お客様に選んでいただける店舗である必要があります。

そのために、店舗マネジメントを今一度見直しお客様をお迎えする体制を整え、接客スタンダードオペレーションの向上を最重要課題としてまいります。

##### 人材採用戦略の強化、働きやすい職場環境や人事関連制度の再構築について

当社は、今後も全国各地で出店を継続していくこととしており、更に店舗のサービスレベル向上を最重要課題としておりますが、人材の確保が必要になります。

今後は、全社的な採用戦略の強化や労働環境の改善、より働きやすい人事関連制度の再構築を検討してまいります。

##### 主要食材の安定供給と品質管理体制の構築、各種コスト増への対応について

当社は、飲食店を運営する企業として、食の安全性・安定供給が重要課題と考えております。

食の安全・安心を常に意識し、更に営業店舗への食材の安定供給を維持向上するために物流拠点や仕入ルートの新規開拓も進めてまいります。また、様々なコスト増要因を把握し、早急な対応に努めてまいります。

##### 新業態を含めた出店戦略の強化、既存店リニューアルの実施について

当社は、今後もお客様を万全な状態の店舗でお迎えすることで、満足していただきたいと考えております。今後も経年変化が目立つ店舗についてはリニューアルを進めてまいります。

また、山岡家ブランドに続く新業態として、煮干しラーメン及び味噌ラーメン業態を出店いたしました。3つのブランドの特徴などを踏まえた出店戦略を強化してまいります。



## 4【事業等のリスク】

以下において、当社の事業の状況及び経理の状況等に関する事項のうち、リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及びその他投資者の判断に重要な影響を及ぼすと考えられる事項を記載しております。当社は、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。当社の有価証券に関する投資判断は、本項及び本有価証券報告書中の本項以外の記載内容も併せて、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

なお、以下の記載のうち、将来に関する事項は、本有価証券報告書提出日（平成30年4月27日）現在において当社が判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果とは異なる可能性があります。

### (1) 当社の事業展開について

#### 事業内容について

当社は、平成30年1月31日現在、「ラーメン山岡家」を主として153店舗（新業態を含む）を北海道から本州、九州地区の主要幹線道路沿いを中心に、全店舗直営店、年中無休営業を基本として出店しております。当社が多店舗展開を推進するにあたり、直営店を基本としてきた理由は、一定の品質・サービス・清潔さの水準を全店ベースで維持・管理するとともに、店舗のスクラップ・アンド・ビルドを実施できることによるものであり、今後も関東、東海、関西地区を中心に引き続き事業の拡大に取り組む方針であります。

しかしながら、当社のセグメントはほぼラーメン事業のみであることから、国内景気の悪化・低迷等の外的要因、あるいは当社固有の問題発生等により、当該事業の展開に何らかの支障が生じた場合は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 豚肉・豚骨への依存度について

当社のラーメンには、チャーシュー用の豚肉、スープ用の豚骨と、豚を多く使用しております。そのため、豚肉・豚骨の仕入については複数の取引先から調達し、リスクの分散を図っております。しかし、主要食材である豚の安全性に問題が発生した場合、売上原価の高騰など当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 出店政策について

当社の出店における基本方針は交通量の多い幹線道路沿いとされており、立地条件が売上高を大きく左右すると考えております。今後の出店に当たっても上記方針に基づき、物件に関する情報ルートを拡大し、より多くの情報の中から出店候補地の諸条件を検討したうえで、選定を行ってまいります。

ただし、当社の出店条件に合致する物件がなく、計画通りに出店できない場合、または出店後における周辺環境の変化や、ファミリーレストラン、コンビニエンスストアといった外食及び同業他社との競合が発生した場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 人材の確保・育成について

当社は直営店の出店を図るため、人材の確保を行っていく必要があります。特にスーパーバイザー（担当エリアの店舗運営における管理監督者）及び店舗の人材確保並びに育成が重要であると考えており、中途・新卒を含め採用活動を行っております。また、採用した人材については、教育担当専任者が中心となり、研修店舗におけるOJT等で教育を進めております。

しかし、人材確保、育成が当社の計画通りに進まない場合には、店舗におけるサービスの質の維持や計画通りの店舗展開が出来ず、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 敷金・保証金について

当社は、賃借により出店を行うことを基本方針としており、土地・店舗の賃借に際して家主に敷金保証金を差入れております。敷金保証金の残高は平成29年1月期末が626,916千円、平成30年1月期末が614,781千円となっており、総資産に対する比率は、各々12.2%、11.2%を占めております。敷金保証金は賃貸借契約終了をもって当社に返還されるものでありますが、賃借先のその後の財政状態によっては回収が困難となる場合や店舗営業に支障が生じる可能性があります。

また、当社側の都合によって不採算店舗の契約を中途解約する場合などは、当該契約に基づき、敷金保証金の一部又は全部が返還されない可能性があり、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

特定人物への依存度について

当社の創業者である代表取締役社長山岡正は、設立以来、経営方針や事業戦略の決定等、当社事業の中心的役割を担っております。現在のところ、他の取締役に権限を委譲する等代表取締役社長山岡正に過度に依存しない体制の構築を進めておりますが、何らかの理由により同氏が当社経営から離れることになった場合、当社の業績及び事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 法的規制等について

法的規制について

当社が運営する店舗は飲食店として、主に食品衛生法による規制を受けております。これらの法的規制が強化された場合や、その他当社事業に関連する法的な規制が強化、新設された場合には、設備投資等必要措置に対応するため、新たな費用負担が生じることなどにより、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

衛生管理について

当社では、安全な食品を提供するために、食品衛生法に基づき所轄保健所より営業許可証を取得し、全店舗に食品衛生管理責任者を配置しております。また、店舗内の衛生管理マニュアルに基づき、従業員の衛生管理や品質管理を徹底しております。更に、専門機関による定期的な各種衛生検査を実施しております。

現在のところ、当社では設立以来食中毒の発生等で行政処分を受けた事例はありませんが、当社の衛生管理諸施策の実施にもかかわらず、衛生問題が発生した場合や、他業者の不手際による連鎖的風評被害、食材メーカー等における無認可添加物の使用等による消費者の不信、また社会全般的な各種衛生上の問題が発生した場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

短時間労働者に対する社会保険の適用拡大について

現在の短時間労働者に対する社会保険については、一日または一週間の労働時間及び一ヶ月の労働日数が通常の業務に従事する者の概ね4分の3以上である場合には加入が義務付けられており、該当するパート・アルバイトなどの短時間労働者は加入しております。

しかしながら、今後、短時間労働者に対する社会保険の適用基準が拡大された場合には、保険料の増加、短時間労働の就労希望者の減少等により、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 有利子負債について

当社は、店舗出店に伴い、主に設備資金を借入金により調達しているため、総資産に占める有利子負債の比率は下表のとおり水準で推移しております。近年は低金利が持続しておりますが、今後、借入金利が上昇に転じた場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

	平成28年1月期	平成29年1月期	平成30年1月期
有利子負債残高(千円)(注) (対総資産額比率)	2,140,628 43.6%	2,572,941 50.0%	2,840,995 52.0%
純資産額(千円) (自己資本比率)	1,468,959 29.9%	1,562,978 30.4%	1,511,472 27.6%
総資産額(千円)	4,913,780	5,144,367	5,466,550
支払利息(千円)	34,646	35,871	34,781

(注)リース債務及び割賦債務を含めて表示しております。

(4) 固定資産の減損に係る会計基準の適用について

当社は、店舗設備を原則自社保有しております。今後、店舗の営業損益に悪化が見られ短期的には回復が見込まれない場合、固定資産の減損に係る会計基準が適用されることにより減損損失が計上され、当社の業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 自然災害等について

当社は、飲食店の経営を主要な事業としておりますが、消費者の来店動機を大幅に減少させるような地震・台風等による大規模な自然災害等が発生した場合、業績及び固定資産へのダメージなどにより財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当事業年度の財政状態及び経営成績の分析は、以下のとおりであります。

本項に記載した将来に関する事項は、本書提出日現在において判断したものであり、不確実性を内在しており、あるいはリスクを含んでいるため、将来生じる実際の結果と大きく異なる可能性もありますので、ご留意下さい。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表を作成するにあたり重要となる会計方針につきましては「第5 経理の状況 1 財務諸表等 (1) 財務諸表 重要な会計方針」に記載のとおりであります。

当社は、税効果会計などに関して、過去の実績や当該取引の状況に照らして、合理的と考えられる見積り及び判断を行い、その結果を資産・負債の帳簿価額及び収益・費用の金額に反映して財務諸表を作成しておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

### (2) 財政状態の分析

#### (資産)

当事業年度末における資産の残高は、前事業年度に比べ322,183千円増加し、5,466,550千円（前年同期比6.3%増）となりました。主な要因は、次のとおりであります。

流動資産につきましては、前事業年度に比べ241,320千円増加し、1,294,564千円（前年同期比22.9%増）となりました。これは現金及び預金の増加（551,717千円から734,766千円へ183,048千円の増加）及び店舗食材の増加（323,371千円から368,858千円へ45,487千円の増加）が大きな要因であります。

固定資産につきましては、前事業年度に比べ80,863千円増加し、4,171,986千円（前年同期比2.0%増）となりました。有形固定資産の増加（3,119,060千円から3,137,135千円へ18,075千円の増加）が大きな要因であります。これは、当事業年度におきまして新規出店が10店舗となったことなどによるものであります。

#### (負債)

当事業年度末における負債の残高は、前事業年度に比べ373,689千円増加し、3,955,078千円（前年同期比10.4%増）となりました。主な要因は、次のとおりであります。

流動負債につきましては、前事業年度に比べ174,847千円増加し、1,913,978千円（前年同期比10.1%増）となりました。これは買掛金の増加（248,898千円から277,363千円へ28,464千円の増加）及び未払消費税等の増加（69,406千円から107,680千円へ38,273千円の増加）、1年以内返済予定社債の増加（30,000千円から100,000千円へ70,000千円増加）が大きな要因であります。

固定負債につきましては、前事業年度に比べ198,842千円増加し、2,041,099千円（前年同期比10.8%増）となりました。これは、長期借入金の減少（1,227,900千円から1,181,074千円へ46,826千円の減少）及び社債の増加（545,000千円から760,000千円へ215,000千円の増加）が大きな要因であります。

#### (純資産)

純資産につきましては、前事業年度に比べ51,506千円減少し、1,511,472千円（前年同期比3.3%減）となりました。これは、当期純損失の計上等に伴う利益剰余金の減少（1,016,679千円から966,718千円へ49,960千円の減少）が大きな要因であります。

### (3) 経営成績の分析

#### (売上高)

新規出店は10店舗となり当事業年度末の店舗数は153店舗になりました。なお6店舗の閉店（業態転換や移転を含みます）を行いました。

新規レギュラーメニューの追加や期間限定メニューの定期的発売、メールマガジンを中心としたモバイルコンテンツやSNSを活用した来店動機の喚起、そしてQSC（商品の品質、サービス、清潔さ）の向上を目的とした従業員トレーニングを継続して行っております。当事業年度は既存店売上高が順調に推移したことにより、売上高は計画を上回って推移いたしました。その結果、当事業年度における売上高は12,134,238千円（前年同期比9.2%増）となりました。

#### (売上原価、売上総利益)

売上原価は、ロス管理を継続して行っております。当事業年度は一部食材価格については天候不順や供給減少などに伴う単価の上昇などがあり、原価率は前年同期比で0.4ポイントの上昇となりました。以上の結果、売上総利益は9,005,563千円（前年同期比8.6%増）となりました。

#### (販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費につきましては、人件費は適切なワークスケジュール管理を行っております。またエネルギーコストにつきましては、一部電気設備からガス設備への更新は概ね完了しております。消耗品費や衛生費などその他コストにつきましても、引き続き効率化を図っております。しかしながら、労働需給逼迫による求人費用やパートナーの時給上昇などに起因した人件費の増加、水道光熱費や販売促進費などの増加もあり、当事業年度における販売費及び一般管理費は8,720,359千円（前年同期比10.9%増）となり、売上高比では71.9%と前期と比較し1.1ポイントの悪化となりました。なお、当事業年度の営業利益は285,204千円（前年同期比33.6%減）となりました。

#### (営業外収益、営業外費用)

営業外収益は、受取保険料が3,855千円（前年同期比44.4%減）となったことなどから、62,031千円（前年同期比9.6%減）となりました。営業外費用は、社債発行費が5,805千円（前年同期比92.4%増）となったことなどから、45,720千円（前年同期比8.2%増）となりました。なお、当事業年度の経常利益は301,515千円（前年同期比33.9%減）となりました。

#### (特別利益、特別損失)

特別利益は固定資産売却益が140千円となりました。特別損失は、減損損失195,297千円、店舗閉鎖損失43,843千円を計上し合計255,910千円（前年同期比64.4%増）となりました。

#### (当期純利益)

税引前当期純利益45,745千円に対し法人税、住民税及び事業税並びに法人税等調整額の合計61,632千円を計上し、当期純損失は15,887千円（前年同期は129,532千円の当期純利益）となりました。

### (4) キャッシュ・フローの分析

当事業年度における現金及び現金同等物は、前事業年度末と比較して147,039千円増加し、当事業年度末は593,736千円となりました。これは、営業活動による増加670,901千円、投資活動による減少680,288千円、財務活動による増加156,425千円によるものであります。

なお、当事業年度における各キャッシュ・フローの状況及び増減要因は、「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

### (5) 経営戦略と今後の見通しについて

次期における経営環境は、国内経済は緩やかな回復基調となっておりますが、欧米や新興国の地政学・経済リスクなど様々な世界情勢動向などもあり、景気の先行き感はまだ不透明な状況にあります。

外食業界では同業他社や他業種を巻き込んだ競合の激化、物流コストの上昇、労働需給逼迫など依然として厳しい環境が続いております。

このような環境の中、当社は以下のとおり、経営戦略を掲げております。

QSCレベルの向上、接客スタンダードオペレーションの向上

リクルート方法の改善、労働環境の改善と向上、より効率的なワークスケジュールの作成、労務・衛生管理の徹底

出店判断の精度向上と出店戦略の強化、各種コスト管理と早急な対応

今後の見通しにつきましては、これからもご来店いただいたお客様に感謝し、喜んでお帰りいただくことで業績の向上に繋がっていくと考えております。そのために、QSC（商品の品質、サービス、清潔さ）の向上に引き続き取り組んでまいります。

更に、売上向上対策やコスト管理をより厳格に行い、現在の最重要課題である人材不足の状況を解消するための施策を重点的に行ってまいります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当事業年度における設備投資は、ラーメン山岡家4店舗及び新業態の極煮干し本舗3店舗の新規出店を中心に、総額677,607千円（敷金、保証金を含む）を実施いたしました。

## 2【主要な設備の状況】

### (1)地域別設置状況

平成30年1月31日現在における地域別設置状況は次のとおりであります。

事業所名 (所在地)	事業部門別の 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械 装置	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社 (札幌市東区)	会社統括 業務	本社	3,190	-	324	-	1,383	4,899	12 (1)
関東営業所 (茨城県つくば市)	会社統括 業務	事務所	25,118	260	2,290	146,050 (828.46)	6,691	180,410	42 (1)
ラーメン山岡家他 北海道49店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	831,275	33,312	48,999	223,403 (2,445.43)	-	1,136,991	126 (276)
ラーメン山岡家他 茨城県20店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	314,831	13,297	11,033	-	-	339,161	46 (141)
ラーメン山岡家 栃木県9店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	130,602	5,287	8,302	-	-	144,192	19 (67)
ラーメン山岡家他 埼玉県12店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	341,285	9,043	10,006	-	-	360,334	31 (102)
ラーメン山岡家他 千葉県15店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	175,461	5,448	8,929	-	-	189,840	24 (109)
ラーメン山岡家 群馬県9店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	143,546	6,464	5,131	-	-	155,142	16 (67)
ラーメン山岡家 東京都1店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	12,420	354	572	-	-	13,347	4 (8)
ラーメン山岡家 宮城県3店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	57,444	1,380	1,842	-	-	60,667	9 (20)
ラーメン山岡家他 静岡県7店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	141,691	2,022	2,414	-	-	146,127	19 (46)
ラーメン山岡家 福島県3店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	10,930	342	2,640	-	-	13,913	6 (19)
ラーメン山岡家 神奈川県3店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	36,279	1,162	2,847	-	-	40,289	10 (18)
ラーメン山岡家 岐阜県2店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	545	-	880	-	-	1,425	2 (10)
ラーメン山岡家 山梨県3店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	46,928	432	1,147	-	-	48,508	4 (20)
ラーメン山岡家 山形県1店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	15,548	201	1,760	-	-	17,509	2 (5)
ラーメン山岡家 愛知県6店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	112,748	2,417	3,755	-	-	118,921	11 (43)
ラーメン山岡家 三重県1店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	8,041	461	1,147	-	-	9,650	3 (6)
ラーメン山岡家 長野県3店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	51,047	2,392	1,763	-	-	55,203	3 (20)
ラーメン山岡家 岩手県1店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	9,759	56	0	-	-	9,815	2 (8)
ラーメン山岡家 秋田県1店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	854	56	0	-	-	910	1 (9)
ラーメン山岡家他 青森県2店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	64,968	2,067	2,427	-	-	69,462	4 (18)

事業所名 (所在地)	事業部門別の 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械 装置	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
ラーメン山岡家 石川県0店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	-	-	-	-	-	-	- (6)
ラーメン山岡家 兵庫県1店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	-	-	-	-	-	-	1 (7)
ラーメン山岡家 大阪府0店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	-	-	-	-	-	-	- (5)
ラーメン山岡家 福岡県1店舗	ラーメン 事業	店舗 設備	784	56	0	-	-	840	1 (6)
合計			2,535,305	86,517	118,215	369,453 (3,273.89)	8,075	3,117,566	398 (1,038)

- (注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマーを含みます。)は年間の平均雇用人数(週40時間換算)を( )内に外数で記載しております。  
 3. 現在貸借中の主要な設備は、店舗の建物及び土地であり、その年間賃借料は432,806千円であります。  
 4. 上記のほか、主な賃貸設備として次のものがあります。

(所在地)	賃貸先	帳簿価額(千円)					年間賃貸料 (千円)
		建物及び 構築物	機械 装置	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	合計	
北海道苫小牧市	(有)木村商店	9,200	-	-	-	9,200	5,338
栃木県小山市	(株)ネオスタイル	1,982	-	-	-	1,982	586
合計		11,183	-	-	-	11,183	5,924

- (注) (有)木村商店は上記物件をコンビニエンスストアとして、(株)ネオスタイルは上記物件を建設工具販売店として営業しております。

## (2) 店舗設置状況

平成30年1月31日現在における店舗設置状況は次のとおりであります。

店舗名	所在地	開店年月	客席数
北海道			席
南2条店	札幌市中央区	平成4年12月	13
手稲店	札幌市手稲区	平成5年12月	49
藤野店	札幌市南区	平成6年8月	46
太平店	札幌市北区	平成7年2月	37
東雁来店	札幌市東区	平成7年7月	36
恵庭店	北海道恵庭市	平成8年2月	37
北広島店	北海道北広島市	平成8年4月	41
岩見沢店	北海道岩見沢市	平成8年10月	37
新道店	札幌市東区	平成9年5月	51
樽川店	北海道石狩市	平成10年9月	36
釧路店	北海道釧路市	平成11年4月	52
北見店	北海道北見市	平成11年12月	53
野幌店	北海道江別市	平成12年6月	46
帯広店	北海道帯広市	平成12年7月	54
旭川永山店	北海道旭川市	平成13年7月	46
上磯店	北海道北斗市	平成13年12月	54
滝川店	北海道砂川市	平成14年7月	64
苫小牧糸井店	北海道苫小牧市	平成14年8月	48
室蘭店	北海道登別市	平成14年11月	78
美幌店	北海道網走郡美幌町	平成14年12月	48
伊達店	北海道伊達市	平成15年4月	62
新すすきの店	札幌市中央区	平成15年8月	28
千歳店	北海道千歳市	平成15年12月	61
八雲店	北海道二海郡八雲町	平成15年12月	43
苫小牧船見店	北海道苫小牧市	平成16年6月	53
月寒店	札幌市豊平区	平成17年10月	61
大谷地店	札幌市厚別区	平成19年12月	59
帯広南店	北海道帯広市	平成20年11月	38
狸小路4丁目店	札幌市厚別区	平成20年12月	18
朝里店	北海道小樽市	平成21年6月	45
函館鍛冶店	北海道函館市	平成22年8月	40
釧路町店	北海道釧路市	平成22年12月	34
網走店	北海道網走市	平成25年8月	44
稚内店	北海道稚内市	平成26年7月	44
東光店	北海道旭川市	平成26年11月	44
音更店	河東郡音更町	平成26年12月	44
遠軽店	北海道紋別郡遠軽町	平成27年5月	26
富良野店	北海道富良野市	平成27年5月	44
中標津店	北海道標津郡中標津町	平成27年8月	44
余市店	北海道余市郡余市町	平成27年11月	44
倶知安店	北海道虻田郡倶知安町	平成27年11月	44
士別店	北海道士別市	平成27年12月	44



店舗名	所在地	開店年月	客席数
紋別店	北海道紋別市	平成28年2月	44
留萌店	北海道留萌市	平成28年7月	50
新ひだか店	北海道日高郡新ひだか町	平成28年12月	48
極煮干し本舗狸小路4丁目店	札幌市中央区	平成29年4月	24
旭川神居店	北海道旭川市	平成29年6月	44
函館万代店	北海道函館市	平成29年7月	44
新発寒店	札幌市手稲区	平成29年10月	39
<b>茨城県</b>			
牛久店	茨城県牛久市	昭和63年9月	24
阿見店	茨城県稲敷郡阿見町	平成10年7月	35
土浦店	茨城県土浦市	平成14年8月	64
岩瀬店	茨城県桜川市	平成15年4月	76
結城店	茨城県結城市	平成15年7月	63
谷田部店	茨城県つくば市	平成15年8月	71
水戸南店	茨城県東茨城郡茨城町	平成15年11月	78
ひたちなか店	茨城県ひたちなか市	平成16年2月	62
守谷店	茨城県守谷市	平成18年12月	45
水戸内原店	水戸内原店	平成19年3月	51
つくば中央店	茨城県つくば市	平成20年9月	32
かすみがうら店	茨城県かすみがうら市	平成21年11月	39
水戸城南店	茨城県水戸市	平成21年12月	37
日立東金沢店	茨城県日立市	平成22年7月	34
コメダ珈琲店つくば店	茨城県つくば市	平成24年10月	106
常陸大宮店	茨城県常陸大宮市	平成27年7月	44
神栖店	茨城県神栖市	平成27年12月	44
石岡店	茨城県石岡市	平成28年7月	54
極煮干し本舗荒川沖店	茨城県土浦市	平成28年11月	62
極味噌本舗桜土浦インター店	茨城県つくば市	平成29年3月	72
<b>栃木県</b>			
小山田間店	栃木県小山市	平成11年4月	63
小山駅南店	栃木県小山市	平成12年12月	54
宇都宮鶴田店	栃木県宇都宮市	平成13年12月	54
壬生店	栃木県下都賀郡壬生町	平成15年3月	55
宇都宮長岡店	栃木県宇都宮市	平成15年7月	87
足利店	栃木県足利市	平成16年4月	53
佐野店	栃木県佐野市	平成18年7月	45
テクノポリスセンター店	栃木県宇都宮市	平成23年10月	34
上三川店	栃木県河内郡上三川町	平成28年10月	64
<b>埼玉県</b>			
春日部店	埼玉県春日部市	平成15年7月	75
吹上店	埼玉県鴻巣市	平成17年4月	52
狭山店	埼玉県狭山市	平成17年4月	53
熊谷店	埼玉県熊谷市	平成17年9月	54
上尾店	埼玉県上尾市	平成17年12月	63
鷲宮店	埼玉県北葛飾郡鷲宮町	平成18年4月	52
店舗名	所在地	開店年月	客席数
さいたま宮前店	さいたま市西区	平成18年9月	45

店舗名	所在地	開店年月	客席数
さいたま丸ヶ崎店	さいたま市見沼区	平成19年12月	45
越谷レイクタウン店	埼玉県越谷市	平成22年4月	45
川島店	埼玉県比企郡川島町	平成28年4月	62
羽生店	埼玉県羽生市	平成28年7月	70
極煮干し本舗東松山店	埼玉県東松山市	平成29年7月	44
<b>千葉県</b>			
柏店	千葉県柏市	平成15年8月	53
成田店	千葉県成田市	平成16年3月	54
千葉中央区店	千葉市中央区	平成16年6月	61
木更津店	千葉県木更津市	平成16年7月	53
千葉花見川区店	千葉市花見川区	平成16年12月	52
君津店	千葉県君津市	平成17年3月	53
野田店	千葉県野田市	平成18年7月	42
八千代店	千葉県八千代市	平成20年8月	64
東千葉店	千葉市中央区	平成20年8月	47
成田飯仲店	千葉県成田市	平成21年6月	43
東金店	千葉県東金市	平成22年7月	43
千葉若葉区店	千葉市若葉区	平成22年9月	45
千葉鎌ヶ谷店	千葉県鎌ヶ谷市	平成22年10月	40
千葉佐倉店	千葉県佐倉市	平成22年11月	34
極煮干し本舗蘇我店	千葉県蘇我市	平成29年10月	46
<b>群馬県</b>			
太田店	群馬県太田市	平成15年12月	60
高崎西店	群馬県安中市	平成16年9月	42
伊勢崎宮子店	群馬県伊勢崎市	平成17年2月	56
高崎倉賀野店	群馬県高崎市	平成17年6月	54
前橋亀里店	群馬県前橋市	平成17年6月	63
高崎中尾店	群馬県高崎市	平成17年7月	63
館林店	群馬県館林市	平成27年8月	44
大泉店	群馬県太田市	平成28年6月	54
前橋野中店	群馬県前橋市	平成28年10月	43
<b>東京都</b>			
瑞穂店	東京都西多摩郡瑞穂町	平成17年2月	52
<b>神奈川県</b>			
厚木店	神奈川県厚木市	平成18年2月	52
相模原店	相模原市中央区	平成19年3月	43
平塚店	神奈川県平塚市	平成20年6月	32
<b>山梨県</b>			
笛吹店	山梨県笛吹市	平成18年8月	54
山梨甲斐店	山梨県甲斐市	平成22年5月	45
フォレスト河口湖店	山梨県南都留郡富士河口湖町	平成23年3月	34

店舗名	所在地	開店年月	客席数
宮城県			
名取店	宮城県名取市	平成17年7月	42
仙台泉区店	仙台市泉区	平成17年10月	61
宮城野店	仙台市宮城野区	平成23年3月	34
福島県			
いわき店	福島県いわき市	平成17年11月	47
福島矢野目店	福島県福島市	平成18年10月	43
郡山店	福島県郡山市	平成23年5月	34
山形県			
山形青田店	山形県山形市	平成19年2月	43
静岡県			
富士店	静岡県富士市	平成17年8月	63
浜松有玉店	浜松市東区	平成18年9月	45
浜松薬師店	浜松市東区	平成21年3月	48
沼津柿田川店	静岡県駿東郡清水町	平成21年11月	58
富士宮店	静岡県富士宮市	平成23年6月	34
浜松南区店	浜松市南区	平成23年6月	34
極煮干し本舗浜松入野店	浜松市西区	平成29年9月	52
岐阜県			
岐阜瑞穂店	岐阜県瑞穂市	平成18年5月	45
大垣店	岐阜県大垣市	平成18年6月	43
愛知県			
豊橋下地店	愛知県豊橋市	平成19年6月	45
大口店	愛知県丹羽郡大口町	平成19年7月	51
音羽蒲郡店	愛知県豊川市	平成21年12月	50
名古屋宝神店	名古屋市港区	平成22年8月	48
愛知刈谷店	愛知県刈谷市	平成23年3月	34
一宮店	愛知県一宮市	平成28年6月	51
三重県			
桑名店	三重県桑名市	平成19年10月	54
長野県			
長野南長池店	長野県長野市	平成22年4月	61
松本店	長野県松本市	平成22年11月	34
諏訪店	長野県諏訪市	平成29年3月	44
岩手県			
岩手盛岡店	岩手県盛岡市	平成22年10月	34
秋田県			
秋田仁井田店	秋田県秋田市	平成22年11月	34
青森県			
弘前店	青森県弘前市	平成23年8月	34
極煮干し本舗弘前店	青森県弘前市	平成29年12月	43
兵庫県			
明石店	兵庫県明石市	平成23年10月	34
福岡県			
北九州店	福岡県北九州市	平成23年12月	34
合 計			7,377

### 3【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設

事業所名 (所在地)	設備の 内容	投資予定金額		資金調達方 法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力 (席)
		総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
極煮干し本舗 すすきの店 (札幌市中央区)	営業 店舗	63,727	16,500	長期借入金	平成30年 1月	平成30年 3月	31
ラーメン山岡家 秋田寺内店 (秋田県秋田市)	営業 店舗	61,924	-	長期借入金	平成30年 4月	平成30年 7月	未定

(注) 1. 投資予定金額には、敷金及び保証金を含んでおります。

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 重要な改修

該当事項はありません。

#### (3) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	9,876,000
計	9,876,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成30年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年4月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,469,000	2,469,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	2,469,000	2,469,000	-	-

(注) 発行済株式は、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年11月1日 (注)	1,646,000	2,469,000	-	291,647	-	272,747

(注) 株式分割(1:3)によるものであります。

#### (6)【所有者別状況】

平成30年1月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株 式の状況 (株)	
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	5	12	21	4	2	3,774	3,818	-
所有株式数 (単元)	-	452	241	1,453	37	2	22,500	24,685	500
所有株式数の 割合(%)	-	1.83	0.98	5.88	0.15	0.01	91.15	100.00	-

(注) 自己株式は、「個人その他」に含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成30年1月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合 (%)
山岡 正	札幌市北区	1,058,100	42.86
山岡 江利子	東京都渋谷区	173,400	7.02
丸千代山岡家社員持株会	札幌市東区東雁来7条1丁目4番32号	92,400	3.74
(株)エヌ・ジー・シー	東京都台東区浅草1丁目43番8号	90,300	3.66
若杉 精三郎	大分県別府市	66,300	2.69
和弘食品(株)	北海道小樽市銭函3丁目504番地1	41,000	1.66
一由 聡	茨城県つくば市	40,900	1.66
朝日火災海上保険(株)	東京都千代田区神田美土代町7	24,600	1.00
宗石 徳代	東京都葛飾区	19,200	0.78
塩尻 榮子	茨城県つくば市	17,000	0.69
計	-	1,623,200	65.74

(注) 上記のほか、自己株式が35,223株あります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 35,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,433,300	24,333	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式
単元未満株式	普通株式 500	-	-
発行済株式総数	2,469,000	-	-
総株主の議決権	-	24,333	-

【自己株式等】

平成30年1月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社丸千代山岡家	札幌市東区東雁来 7条1丁目4番32号	35,200	-	35,200	1.43
計	-	35,200	-	35,200	1.43

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

( 10 ) 【従業員株式所有制度の内容】

取締役等に対する業績連動型株式報酬制度の導入

当社は、平成30年4月26日開催の第25回定時株主総会において、当社の取締役（監査等委員である取締役及びそれ以外の取締役のうち社外取締役である者を除きます。）に対する新たな業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT（=Board Benefit Trust））」を導入することを決議しました。

詳細は、「第5 経理の状況 1 財務諸表等 (1)財務諸表 注記事項（重要な後発事象）」に記載のとおりであります。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

( 1 ) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

( 2 ) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

( 4 ) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数（株）	処分価額の総額（円）	株式数（株）	処分価額の総額（円）
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	35,223	-	35,223	-

### 3【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、財務体質の強化と将来の事業拡大に必要な内部留保、利益見通し等を勘案した上で、配当政策を決定してまいります。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき当期は1株当たり14円の普通配当の配当を実施することを決定しました。

内部留保資金につきましては、収益性の一層の向上を図るため、新規店舗及び改装に伴う設備資金として有効活用してまいります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年7月31日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年4月26日 株主総会決議	34,072	14

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
決算年月	平成26年1月	平成27年1月	平成28年1月	平成29年1月	平成30年1月
最高(円)	955	1,980	5,360 1,780	1,600	1,517
最低(円)	752	772	1,619 1,264	1,040	1,140

(注) 1. 最高・最低株価は、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

2. 印は株式分割後(平成27年11月1日、1株 3株)による権利落後の最高・最低株価を示しております。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年8月	平成29年9月	平成29年10月	平成29年11月	平成29年12月	平成30年1月
最高(円)	1,258	1,243	1,318	1,340	1,517	1,505
最低(円)	1,204	1,184	1,230	1,289	1,305	1,361

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。



5【役員の状況】

男性6名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役社長		山岡 正	昭和30年5月21日生	昭和49年4月 自衛隊入隊 昭和53年1月 自衛隊除隊 昭和53年3月 ㈱エヌ・ジー・シー入社 昭和55年2月 ㈱丸千代商事代表取締役社長 平成5年3月 当社代表取締役社長(現任)	(注)2	1,058,100
専務取締役	営業本部長	一由 聡	昭和45年6月25日生	平成6年3月 ㈱丸千代商事入社 平成9年3月 同社取締役営業部長 平成14年2月 当社取締役営業部長 平成19年9月 当社取締役関東営業部長 平成20年3月 当社取締役購買部長 平成22年6月 当社取締役人事総務部長兼 経営企画室長 平成23年8月 当社取締役経営企画室長兼 営業副本部長 平成24年2月 当社取締役営業本部長 平成24年9月 当社取締役営業本部長兼第一営業部長 平成25年2月 当社専務取締役営業本部長兼第一営業 部長 平成29年3月 当社専務取締役営業本部長(現任)	(注)2	40,900
取締役	管理本部長	荒谷 健一	昭和54年1月8日生	平成16年4月 当社入社 平成21年9月 当社営業本部関東第二営業部S V 平成23年8月 当社営業本部西日本営業部部長 平成24年9月 当社営業本部第二営業部部長 平成27年4月 当社管理本部人材開発部部長 平成29年4月 当社取締役管理本部長兼人材開発部部 長(現任)	(注)2	5,400
取締役 (監査等委員) (注)1	-	坂本 尚幸	昭和34年3月16日生	昭和54年4月 ㈱クワザワ入社 昭和62年7月 兜大友建設㈱入社 平成7年4月 札幌臨床検査センター㈱入社 平成14年3月 SCCコンサルティング㈱代表取締役 (現任) 平成28年4月 当社監査役 平成30年4月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	-
取締役 (監査等委員) (注)1	-	斉藤 世司典	昭和31年8月28日生	昭和55年4月 北海道マツダ販売㈱入社 平成元年1月 中道リース㈱入社 平成7年3月 税理士登録 斉藤世司典税理士事務所代表(現任) 平成14年4月 ㈱オーバルマネジメント代表取締役 (現任) 平成23年4月 当社監査役 平成30年4月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	-
取締役 (監査等委員) (注)1	-	渡辺 剛	昭和42年5月23日生	平成3年3月 カプトデコム㈱入社 平成5年3月 ㈱リッチフィールド転籍 平成12年9月 司法書士登録、司法書士渡辺剛事務所 所長(現任) 平成30年4月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	-
計						1,104,400

(注)1. 取締役坂本 尚幸、斉藤 世司典及び渡辺 剛は、社外取締役であります。

2. 平成30年4月26日就任後、1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する 定時株主総会の終結の時  
までとなります。

3. 平成30年4月26日就任後、2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時  
までとなります。

4. 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。

委員長 坂本 尚幸 委員 斎藤 世司典 委員 渡辺 剛

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、事業の成長やそのステージに合わせ、有効かつ効率的なコーポレート・ガバナンスを行うことで、株主をはじめお客様や従業員及び取引先、更に地域社会など全てのステークホルダーにとって企業価値を長期的・継続的に高めることが、重要な課題であると考えております。具体的には、経営判断の迅速かつ確かな意思決定を図るなか、経営の透明性・健全性を維持するために、監査等委員会監査、内部監査体制の強化、適切なIR活動を通じて、コーポレート・ガバナンスを機能させてまいります。

当社は、平成30年4月26日開催の定時株主総会において、監査等委員会設置会社への移行を内容とする定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

#### 企業統治の体制

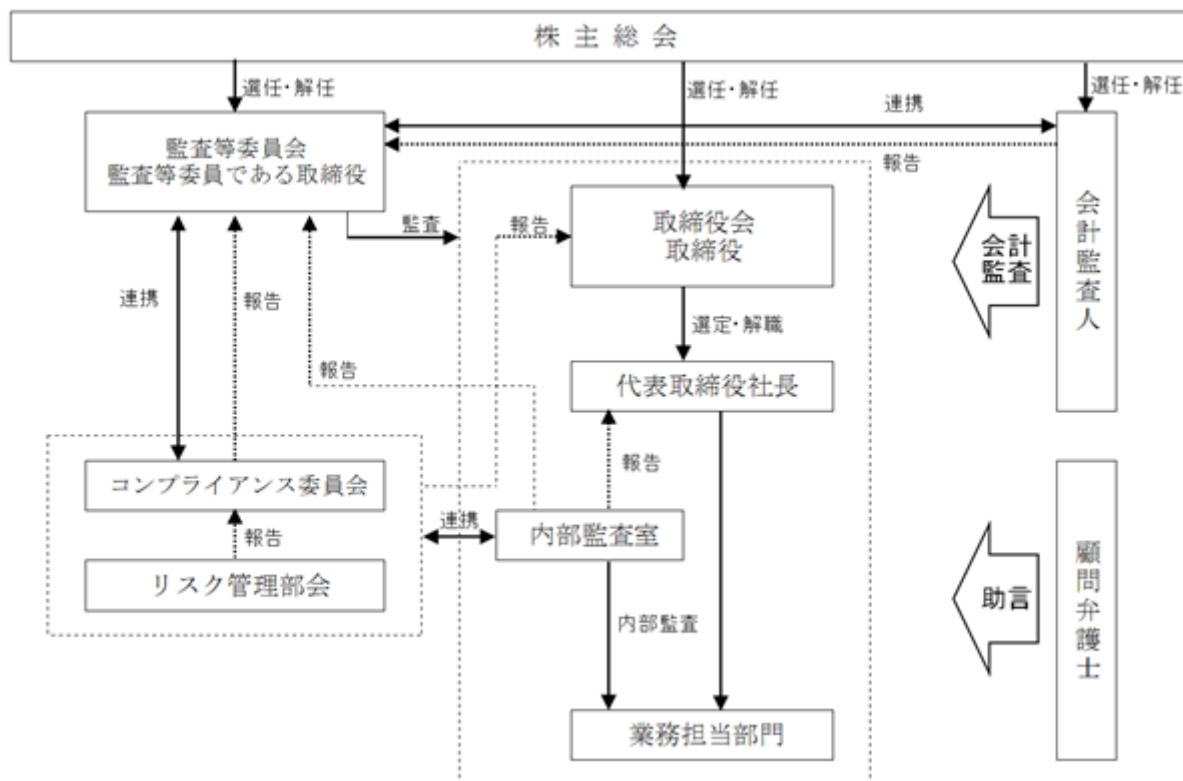
##### ・企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社の企業統治の体制といたしましては、監査等委員会設置会社であり、監査等委員には現在3名を選任しており、3名全員が社外取締役であります。経営上の最高意思決定機関である取締役会は、社内の事情に精通した社内取締役3名及び監査等委員3名で構成されており、法令及び定款で定められた事項のほか、経営に関する重要事項について報告、決議しております。監査等委員も毎回出席して、必要に応じて意見の陳述を行っております。取締役会は毎月1回定期的に開催するほか、それ以外にも必要に応じて随時開催し、重要事項の決定に際し的確な経営判断がなされるよう運営しており、現在の体制において十分に経営の監視機能は保たれていると判断しております。

##### ・内部統制システムの整備状況

取締役会と監査等委員会を定期的で開催し、それ以外にも必要に応じて開催することにより、迅速な経営意思決定に努めております。更に社内取締役及び部門長をメンバーとする部門長会議を定期的を開催し、リスクマネジメントの管理状況、業績に対する問題点の把握や対策の検討など、経営状況の確認の場として機能させております。また、法律上の判断を必要とする場合には顧問弁護士より適宜専門的なアドバイスを受けられる体制を整えております。会計監査人であります清明監査法人からは、会計上の課題についても適宜指導・助言を受けております。

なお、当社における企業統治体制を図で示すと以下のとおりであります。



・リスク管理体制の整備状況

総合的なリスク管理については、コンプライアンス委員会を定期的開催しリスク管理全般について企画、検討、実行を行うほか、同委員会の下部組織として設置しているリスク管理部会を定期的開催し、業務プロセス等において重大なリスクが発見された場合は、コンプライアンス委員会へ具申することとしております。

個別のリスク管理については、災害、事故、トラブル等に迅速に対応出来るよう、店舗、エリア、本部間の緊急連絡網を整備し、「危機管理マニュアル」を全店舗に備え付け、緊急時の対応に備えております。更に、不測の事態が発生した場合には、顧問弁護士を含む外部アドバイザーに対し連絡、相談等が可能な体制としているほか、緊急事態対策室をコンプライアンス委員会内に発足させることとしております。また、法令違反行為等に関する通報に対して適切に対処するため、「社内通報制度運用規程」を制定し、従業員の社内通報・連絡・相談窓口を設置・運用しております。

なお、内部監査室が定期的リスク管理項目についての監査を行い、取締役会及び監査等委員会に報告しております。

内部監査及び監査等委員会監査の状況

当社では社長直属の独立機関として内部監査室を設置しており、現在は室長1名体制であります。内部監査室では、規程に則り監査計画を策定して、会社の業務活動が適正・効率的に行われているかを監査しております。また、効率的な監査を行うため、監査等委員会とも監査結果について情報を共有する等、連携強化に努めております。

監査等委員には3名を選任しており、全員が社外取締役であります。毎月1回定期的に監査等委員会を開催して監査等委員間の意見交換及び意思統一を図っております。また、必要に応じて内部監査室や会計監査人とも情報交換を行い、監査等委員会監査機能の充実に努めております。また、必要に応じ、人事総務部と内部監査室は監査等委員会から調査の委嘱を受け、監査等委員の職務を補助しております。

会計監査の状況

イ．業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人
指定社員 業務執行社員 島貫 幸治	清明監査法人
指定社員 業務執行社員 北倉 隆一	清明監査法人

(注) 継続監査年数は、両名とも7年を超えないため記載を省略しております。

ロ．会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士1名

社外取締役

当社の社外取締役は3名であります。

社外取締役坂本尚幸、斉藤世司典、渡辺剛は、当社との人的関係、資本的關係又は取引関係などの特別な利害関係はありません。

また、社外取締役のうち1名は税理士資格、1名は司法書士資格を有しており、税法や法令等に精通しているため、会社法以外の遵法性についてもチェック出来る体制になっております。

なお、監査等委員会は内部監査室及び会計監査人と相互連携を密にしており、内部監査室とは内部統制評価等を始めとした情報共有を適宜行うとともに、リスク管理活動の状況等について内部統制部門から定期的に報告を受けております。また、会計監査人とは監査計画・監査報告等を含めた連携を定期的に行っており、監査等委員会監査の充実に努めております。

当社は平成30年4月26日開催の定時株主総会の株主総会決議により、監査等委員会設置会社への移行を内容とする定款の変更が決議され、社外取締役を選任いたしました。当社は、経営の意思決定機能と、業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査等委員である取締役を全員社外取締役とすることで、今後更に経営への監視機能を強化してまいります。コーポレート・ガバナンスにおいては、外部からの客観的かつ中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外取締役による監査が実施されることで、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整ったものと考えております。

当社は社外取締役の独立性に関する基準や方針は明確に定めておりませんが、選任にあたりましては、社外取締役の専門的かつ客観的な視点や、意見具申は有用であると考えており、これまでの経歴や幅広い見識から独立的な立場で当社の経営監視が出来る人材を求める方針としております。

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 ( 社外取締役を除く )	63,900	63,900	-	-	-	4
監査役 ( 社外監査役を除く )	-	-	-	-	-	-
社外役員	10,320	10,320	-	-	-	3

ロ．役員報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法  
当社は役員報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
3銘柄 32,859千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	9,250	17,946	取引先企業との取引関係等の円滑化
和弘食品(株)	10,000	2,780	取引先企業との取引関係等の円滑化
(株)イー・カム・トゥルー	28,000	10,080	取引先企業との取引関係等の円滑化

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	9,926	16,209	取引先企業との取引関係等の円滑化
和弘食品(株)	2,000	6,570	取引先企業との取引関係等の円滑化
(株)イー・カム・トゥルー	28,000	10,080	取引先企業との取引関係等の円滑化

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額  
該当事項はありません。

ニ．投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額  
該当事項はありません。

ホ．投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額  
該当事項はありません。

取締役の定数

当社の取締役(監査等委員である取締役を除く。)は10名以内、監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した株主の議決権の過半数の決議によって行なう旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

#### 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年7月31日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

#### 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

#### 取締役の責任免除

当社は、取締役会の決議をもって会社法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役および監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

#### 取締役の責任限定契約

当社は、取締役（業務執行取締役等であるものを除く）との間で、会社法第423条第1項に定める取締役の損害賠償責任について、会社法第425条第1項各号に定める金額の合計額を限度とする旨の契約を締結することができる旨を定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した株主の議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

### (2) 【監査報酬の内容等】

#### 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
12,000	-	12,000	-

#### 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

#### 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

#### 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成29年2月1日から平成30年1月31日まで）の財務諸表について清明監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

### 4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

## 1【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年1月31日)	当事業年度 (平成30年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	551,717	734,766
売掛金	1,553	3,462
店舗食材	323,371	368,858
貯蔵品	26,057	32,428
前払費用	98,970	100,811
繰延税金資産	29,672	30,270
その他	21,900	23,965
流動資産合計	1,053,243	1,294,564
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 5,017,281	1 5,212,666
減価償却累計額	2,910,027	3,083,127
建物(純額)	1 2,107,253	1 2,129,539
構築物	1,205,657	1,251,699
減価償却累計額	780,269	834,749
構築物(純額)	425,387	416,949
機械及び装置	178,339	197,534
減価償却累計額	85,490	111,017
機械及び装置(純額)	92,849	86,517
車両運搬具	10,935	12,228
減価償却累計額	6,532	11,372
車両運搬具(純額)	4,403	855
工具、器具及び備品	183,965	278,972
減価償却累計額	106,782	160,757
工具、器具及び備品(純額)	77,183	118,215
土地	1 369,453	1 369,453
リース資産	310,404	16,163
減価償却累計額	299,033	8,944
リース資産(純額)	11,371	7,219
建設仮勘定	31,157	8,385
有形固定資産合計	3,119,060	3,137,135
無形固定資産		
借地権	-	7,145
電話加入権	3,481	3,481
ソフトウェア	3,666	10,606
リース資産	596	198
無形固定資産合計	7,743	21,431
投資その他の資産		
投資有価証券	30,806	32,859
長期前払費用	92,581	95,149
繰延税金資産	61,577	88,848
敷金及び保証金	626,916	614,781
保険積立金	148,769	176,982
その他	3,669	4,796
投資その他の資産合計	964,319	1,013,419
固定資産合計	4,091,123	4,171,986
資産合計	5,144,367	5,466,550

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年1月31日)	当事業年度 (平成30年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	248,898	277,363
短期借入金	50,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	1,647,134	1,653,480
1年内償還予定の社債	30,000	100,000
リース債務	4,021	2,827
未払金	591,153	618,625
未払法人税等	42,392	48,839
未払消費税等	69,406	107,680
販売促進引当金	48,000	56,200
店舗閉鎖損失引当金	-	4,543
資産除去債務	-	5,256
その他	8,124	9,161
流動負債合計	1,739,130	1,913,978
固定負債		
長期借入金	1,122,900	1,181,074
社債	545,000	760,000
リース債務	7,550	4,723
資産除去債務	2,983	3,686
その他	58,822	91,615
固定負債合計	1,842,257	2,041,099
負債合計	3,581,388	3,955,078
純資産の部		
株主資本		
資本金	291,647	291,647
資本剰余金		
資本準備金	272,747	272,747
資本剰余金合計	272,747	272,747
利益剰余金		
利益準備金	400	400
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,016,279	966,318
利益剰余金合計	1,016,679	966,718
自己株式	17,701	17,701
株主資本合計	1,563,371	1,513,411
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	393	1,938
評価・換算差額等合計	393	1,938
純資産合計	1,562,978	1,511,472
負債純資産合計	5,144,367	5,466,550



## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年2月1日 至 平成29年1月31日)	当事業年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)
売上高	11,110,958	12,134,238
売上原価		
店舗食材期首たな卸高	268,484	323,371
当期店舗食材仕入高	3,014,143	3,363,580
合計	3,282,627	3,686,951
他勘定振替高	1 142,924	1 189,418
店舗食材期末たな卸高	323,371	368,858
売上原価合計	2,816,331	3,128,674
売上総利益	8,294,627	9,005,563
販売費及び一般管理費		
役員報酬	74,930	74,220
給料及び手当	1,390,285	1,520,821
雑給	2,208,788	2,447,930
法定福利費	368,870	431,145
退職給付費用	27,899	36,954
福利厚生費	19,854	20,471
広告宣伝費	139,269	162,525
旅費及び交通費	121,716	130,645
販売促進引当金繰入額	48,000	56,200
水道光熱費	1,140,463	1,293,743
賃借料	44,026	38,047
地代家賃	736,885	773,247
保険料	31,854	33,703
消耗品費	220,508	225,761
衛生費	141,712	157,802
支払手数料	141,676	148,543
減価償却費	389,237	401,244
その他	619,186	767,349
販売費及び一般管理費合計	7,865,165	8,720,359
営業利益	429,461	285,204
営業外収益		
受取利息	4,947	4,356
協賛金収入	5,662	4,865
受取保険料	6,932	3,855
受取賃貸料	11,699	10,298
受取手数料	34,751	35,991
その他	4,616	2,663
営業外収益合計	68,610	62,031
営業外費用		
支払利息	34,142	32,245
社債利息	1,729	2,536
社債発行費	3,017	5,805
その他	3,376	5,133
営業外費用合計	42,265	45,720
経常利益	455,806	301,515

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年2月1日 至 平成29年1月31日)	当事業年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)
特別利益		
固定資産売却益	2 -	2 140
特別利益合計	-	140
特別損失		
固定資産除却損	3 24,179	3 12,225
店舗閉鎖損失	4 -	4 43,843
店舗閉鎖損失引当金繰入額	-	4,543
減損損失	5 131,442	5 195,297
特別損失合計	155,622	255,910
税引前当期純利益	300,184	45,745
法人税、住民税及び事業税	156,887	88,826
法人税等調整額	13,763	27,194
法人税等合計	170,651	61,632
当期純利益又は当期純損失( )	129,532	15,887

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年2月1日 至 平成29年1月31日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	291,647	272,747	272,747	400	920,818	921,218	17,701	1,467,911	
当期変動額									
剰余金の配当					34,072	34,072		34,072	
当期純利益					129,532	129,532		129,532	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	95,460	95,460	-	95,460	
当期末残高	291,647	272,747	272,747	400	1,016,279	1,016,679	17,701	1,563,371	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,048	1,048	1,468,959
当期変動額			
剰余金の配当			34,072
当期純利益			129,532
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,441	1,441	1,441
当期変動額合計	1,441	1,441	94,018
当期末残高	393	393	1,562,978

当事業年度（自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	291,647	272,747	272,747	400	1,016,279	1,016,679	17,701	1,563,371
当期変動額								
剰余金の配当					34,072	34,072		34,072
当期純損失（ ）					15,887	15,887		15,887
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	49,960	49,960	-	49,960
当期末残高	291,647	272,747	272,747	400	966,318	966,718	17,701	1,513,411

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	393	393	1,562,978
当期変動額			
剰余金の配当			34,072
当期純損失（ ）			15,887
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,545	1,545	1,545
当期変動額合計	1,545	1,545	51,506
当期末残高	1,938	1,938	1,511,472

## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年2月1日 至 平成29年1月31日)	当事業年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	300,184	45,745
減価償却費	389,237	401,244
減損損失	131,442	195,297
店舗閉鎖損失	-	43,843
受取利息及び受取配当金	5,362	4,768
支払利息	35,871	34,781
社債発行費	3,017	5,805
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	-	4,543
販売促進引当金の増減額(は減少)	9,100	8,200
固定資産除売却損益(は益)	24,179	12,085
売上債権の増減額(は増加)	730	1,909
たな卸資産の増減額(は増加)	59,746	51,857
その他の流動資産の増減額(は増加)	863	6,695
長期前払費用の増減額(は増加)	173	6,574
仕入債務の増減額(は減少)	723	28,464
その他の流動負債の増減額(は減少)	49,234	80,267
その他の固定負債の増減額(は減少)	4,138	538
小計	772,406	801,327
利息及び配当金の受取額	5,362	4,768
利息の支払額	37,301	35,156
法人税等の支払額	364,494	100,037
営業活動によるキャッシュ・フロー	375,972	670,901
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	39,014	36,009
定期預金の払戻による収入	10,000	-
有形固定資産の取得による支出	819,219	562,251
有形固定資産の売却による収入	-	150
無形固定資産の取得による支出	1,170	16,554
投資有価証券の取得による支出	1,200	4,274
その他	73,287	61,347
投資活動によるキャッシュ・フロー	923,892	680,288
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(は減少)	30,000	20,000
長期借入れによる収入	1,050,000	700,000
長期借入金の返済による支出	873,252	740,480
社債の発行による収入	196,982	344,194
社債の償還による支出	30,000	65,000
割賦債務の返済による支出	11,670	24,407
リース債務の返済による支出	5,770	4,021
配当金の支払額	33,880	33,862
財務活動によるキャッシュ・フロー	322,409	156,425
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	225,510	147,039
現金及び現金同等物の期首残高	672,208	446,697
現金及び現金同等物の期末残高	446,697	593,736

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

店舗食材

月次総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

貯蔵品

最終仕入原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

- ・建物 14～31年
- ・構築物 10～30年

また、定期借地権契約上の店舗の建物及び構築物については、その耐用年数が定期借地権契約期間を超えている場合は、定期借地権契約期間を耐用年数とし、残存価額を零とした定額法によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

4. 繰延資産の処理方法

社債発行費

支出時に全額費用処理しております。

5. 引当金の計上基準

販売促進引当金

顧客に発行した無料引換券の使用による費用負担に備えるため、使用実績に基づき、将来使用されると見込まれる額を計上しております。

店舗閉鎖損失引当金

閉店を決定した店舗について、店舗の閉鎖に伴い発生する損失に備えるため、将来発生すると見込まれる損失額を計上しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ取引

ヘッジ対象・・・借入金

(3) ヘッジ方針

金利変動リスクを回避するために、特例処理の条件内でヘッジを行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

特例処理によっているため、有効性の評価を省略しております。

7. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項  
消費税等の会計処理  
税抜方式によっております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年1月31日)	当事業年度 (平成30年1月31日)
建物	33,043千円	30,753千円
土地	337,516	337,516
計	370,559	368,269

担保付債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年1月31日)	当事業年度 (平成30年1月31日)
1年内返済予定の長期借入金	69,256千円	40,700千円
長期借入金	65,700	67,500
計	134,956	108,200

(損益計算書関係)

1 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成28年2月1日 至平成29年1月31日)	当事業年度 (自平成29年2月1日 至平成30年1月31日)
販売促進費への振替高	142,924千円	189,418千円
計	142,924	189,418

2 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成28年2月1日 至平成29年1月31日)	当事業年度 (自平成29年2月1日 至平成30年1月31日)
車両運搬具	-千円	140千円
計	-	140

3 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成28年2月1日 至平成29年1月31日)	当事業年度 (自平成29年2月1日 至平成30年1月31日)
建物	21,657千円	11,477千円
構築物	142	133
機械及び装置	967	545
工具、器具及び備品	1,191	68
リース資産	220	0
計	24,179	12,225

4 店舗閉鎖損失の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成28年2月1日 至平成29年1月31日)	当事業年度 (自平成29年2月1日 至平成30年1月31日)
敷金及び保証金	-千円	37,281千円
長期前払費用	-	1,312
その他	-	5,249
計	-	43,843



5 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前事業年度（自 平成28年2月1日 至 平成29年1月31日）

用途	種類	場所	減損損失 (千円)
店舗	建物・機械装置・工具器具備品	北海道旭川市	1,853
店舗	建物・機械装置・工具器具備品	北海道北見市	3,877
店舗	建物・構築物・機械装置	埼玉県鴻巣市	9,284
店舗	建物・構築物・機械装置	群馬県前橋市	17,817
店舗	建物・構築物	岐阜県大垣市	18,349
店舗	建物	浜松市西区	501
店舗	建物・工具器具備品	埼玉県東松山市	2,316
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品・リース資産	名古屋市港区	14,295
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	福島県郡山市	17,774
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	石川県金沢市	16,897
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	兵庫県明石市	28,475

当社は、独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位である店舗単位によって資産のグルーピングを行っております。また、賃貸資産については、物件ごとにグルーピングを行っております。

店舗の一部については、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、早期の黒字化が困難と予想されるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（131,442千円）として特別損失に計上しております。その内訳は、建物117,289千円、構築物9,912千円、機械装置2,256千円、工具器具備品1,940千円、リース資産43千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は、固定資産の正味売却価額により測定しております。

当事業年度（自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）

用途	種類	場所	減損損失 (千円)
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	北海道網走郡	8,551
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	北海道紋別郡	22,566
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	北海道紋別市	44,662
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	栃木県下都賀郡	6,990
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	群馬県安中市	11,230
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	群馬県伊勢崎市	13,131
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品・リース資産	群馬県高崎市	17,055
店舗	建物	群馬県前橋市	920
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	岐阜県岐阜市	18,495
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	千葉県東金市	11,668
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	千葉県佐倉市	18,004
店舗	建物・構築物・機械装置・工具器具備品	茨城県常陸大宮市	22,020

当社は、独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位である店舗単位によって資産のグルーピングを行っております。また、賃貸資産については、物件ごとにグルーピングを行っております。

店舗の一部については、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、早期の黒字化が困難と予想されるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（195,297千円）として特別損失に計上しております。その内訳は、建物161,021千円、構築物21,442千円、機械装置6,732千円、工具器具備品6,096千円、リース資産5千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は、固定資産の正味売却価額により測定しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成28年2月1日至平成29年1月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	2,469,000	-	-	2,469,000
合計	2,469,000	-	-	2,469,000
自己株式				
普通株式	35,223	-	-	35,223
合計	35,223	-	-	35,223

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年4月27日 定時株主総会	普通株式	34,072	14	平成28年1月31日	平成28年4月28日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年4月27日 定時株主総会	普通株式	34,072	利益剰余金	14	平成29年1月31日	平成29年4月28日

当事業年度（自 平成29年 2月 1日 至 平成30年 1月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数（株）	当事業年度増加株式数（株）	当事業年度減少株式数（株）	当事業年度末株式数（株）
発行済株式				
普通株式	2,469,000	-	-	2,469,000
合計	2,469,000	-	-	2,469,000
自己株式				
普通株式	35,223	-	-	35,223
合計	35,223	-	-	35,223

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成29年 4月27日 定時株主総会	普通株式	34,072	14	平成29年 1月31日	平成29年 4月28日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額（千円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成30年 4月26日 定時株主総会	普通株式	34,072	利益剰余金	14	平成30年 1月31日	平成30年 4月27日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成28年 2月 1日 至 平成29年 1月31日)	当事業年度 (自 平成29年 2月 1日 至 平成30年 1月31日)
現金及び預金勘定	551,717千円	734,766千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金等	105,020	141,029
現金及び現金同等物	446,697	593,736

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主に店舗における店舗内設備・厨房機器（工具、器具及び備品）であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については預金等の安全性の高い金融資産に限定し、また、資金調達については、設備投資計画に照らして、必要な資金は主に銀行借入による方針であります。デリバティブは、借入金の金利変動リスクの回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、それらは業務上の関係を有する企業の株式がほとんどであり、当該リスクに関しては財務経理部において定期的に時価や発行体（主として取引先企業）の財務状況等を把握する体制としております。

敷金及び保証金は、主に店舗の賃貸借契約による差入預託保証金であります。当該敷金及び保証金については、当社の規則に従い、適切な債権管理を実施する体制としております。

営業債務である買掛金、未払金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

短期借入金は、主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金及び社債、長期未払金は、主に設備投資に係る資金調達です。変動金利の借入金は金利の変動リスクに晒されますが、長期借入を変動金利で実施し、その支払金利の変動リスクを回避して支払利息の固定化を図る場合には、ヘッジの有効性の評価において金利スワップ取引の特例処理の要件を満たしていることを前提に、個別契約ごとに金利スワップ取引をヘッジ手段として利用することを原則としております。

デリバティブ取引の執行・管理については、当社の規則に従い、また、デリバティブ取引の利用にあたっては、いずれも信用度の高い国内の金融機関に限定しており、契約不履行による信用リスクはほとんどないと認識しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

## 前事業年度(平成29年1月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	551,717	551,717	-
(2) 売掛金	1,553	1,553	-
(3) 投資有価証券	30,806	30,806	-
(4) 敷金及び保証金( )	314,236	325,909	11,673
資産計	898,312	909,986	11,673
(1) 買掛金	248,898	248,898	-
(2) 短期借入金	50,000	50,000	-
(3) 1年内返済予定の長期借入金	647,134	664,990	17,856
(4) 1年内償還予定の社債	30,000	31,879	1,879
(5) リース債務(流動負債)	4,021	5,360	1,339
(6) 未払金	575,633	575,633	-
(7) 長期未払金(流動負債)	15,520	15,879	358
(8) 未払法人税等	42,392	42,392	-
(9) 未払消費税等	69,406	69,406	-
(10) 長期借入金	1,227,900	1,208,863	19,036
(11) 社債	545,000	539,806	5,193
(12) リース債務(固定負債)	7,550	10,030	2,479
(13) 長期未払金(固定負債)	45,815	44,083	1,731
負債計	3,509,272	3,507,223	2,048
デリバティブ取引	-	-	-

資産除去債務相当額を控除しております。

当事業年度（平成30年1月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	734,766	734,766	-
(2) 売掛金	3,462	3,462	-
(3) 投資有価証券	32,859	32,859	-
(4) 敷金及び保証金( )	295,977	304,791	8,813
資産計	1,067,065	1,075,879	8,813
(1) 買掛金	277,363	277,363	-
(2) 短期借入金	30,000	30,000	-
(3) 1年内返済予定の長期借入金	653,480	669,864	16,384
(4) 1年内償還予定の社債	100,000	102,551	2,551
(5) リース債務(流動負債)	2,827	4,038	1,211
(6) 未払金	588,881	588,881	-
(7) 長期未払金(流動負債)	29,744	30,679	935
(8) 未払法人税等	48,839	48,839	-
(9) 未払消費税等	107,680	107,680	-
(10) 長期借入金	1,181,074	1,162,618	18,455
(11) 社債	760,000	759,885	114
(12) リース債務(固定負債)	4,723	6,562	1,838
(13) 長期未払金(固定負債)	79,145	76,755	2,390
負債計	3,863,760	3,865,720	1,960
デリバティブ取引	-	-	-

資産除去債務相当額を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

(4) 敷金及び保証金

敷金及び保証金（返還時期が確定しているもの）については、将来キャッシュ・フロー（資産除去債務の履行により最終的に回収が見込めない金額控除後）を事業年度末から返還までの見積もり期間に基づき、国債の利回り等、適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値によっております。

負債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(6) 未払金、(8) 未払法人税等、(9) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 1年内返済予定の長期借入金、(4) 1年内償還予定の社債、(5) リース債務（流動負債）、(7) 長期未払金（流動負債）、(10) 長期借入金、(11) 社債、(12) リース債務（固定負債）、(13) 長期未払金（固定負債）

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成29年1月31日)	当事業年度 (平成30年1月31日)
敷金及び保証金	240,019	245,774

(注) 敷金及び保証金の一部については、残存期間を特定できず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(4) 敷金及び保証金」には含めておりません。

3. 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成29年1月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	551,717	-	-	-
売掛金	1,553	-	-	-
敷金及び保証金	22,378	93,457	124,766	73,632
合計	575,649	93,457	124,766	73,632

(注) 敷金及び保証金の一部については、残存期間を合理的に見込むことが出来ないため、上表に含めておりません。

当事業年度（平成30年1月31日）

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	734,766	-	-	-
売掛金	3,462	-	-	-
敷金及び保証金	24,105	84,618	115,176	72,077
合計	762,334	84,618	115,176	72,077

(注) 敷金及び保証金の一部については、残存期間を合理的に見込むことが出来ないため、上表に含めておりません。

4. 長期借入金、社債、リース債務及び長期未払金の決算日後の返済予定額

前事業年度（平成29年1月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	647,134	513,448	379,222	260,780	74,450	-
社債	30,000	30,000	165,000	150,000	200,000	-
リース債務	4,021	2,827	2,069	1,972	681	-
長期未払金	15,520	15,654	15,791	10,334	4,034	-
合計	696,675	561,930	562,083	423,086	279,165	-

当事業年度（平成30年1月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	653,480	519,254	400,812	214,482	46,526	-
社債	100,000	235,000	220,000	270,000	35,000	-
リース債務	2,827	2,069	1,972	681	-	-
長期未払金	29,744	30,099	24,863	18,788	5,395	-
合計	786,051	786,422	647,647	503,951	86,921	-



(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券  
該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券  
該当事項はありません。

3. 子会社株式及び関連会社株式  
該当事項はありません。

4. その他有価証券  
前事業年度(平成29年1月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	2,780	2,573	206
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	2,780	2,573	206
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	28,026	28,797	771
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	28,026	28,797	771
合計		30,806	31,370	564

当事業年度（平成30年1月31日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	6,570	5,644	925
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	6,570	5,644	925
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	26,289	30,001	3,711
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	26,289	30,001	3,711
合計		32,859	35,645	2,786

5. 売却したその他有価証券  
該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
該当事項はありません。
2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引  
金利関連

前事業年度(平成29年1月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	423,750	267,500	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当事業年度(平成30年1月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	395,000	265,000	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

前事業年度(自平成28年2月1日至平成29年1月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要  
当社は、当事業年度より新たに確定拠出年金制度を採用しております。
2. 確定拠出制度  
当社の確定拠出制度への要拠出額は27,899千円であります。

当事業年度(自平成29年2月1日至平成30年1月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要  
当社は、確定拠出年金制度を採用しております。
2. 確定拠出制度  
当社の確定拠出制度への要拠出額は36,954千円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年1月31日)	当事業年度 (平成30年1月31日)
繰延税金資産(流動)		
未払事業税	6,515千円	10,910千円
未払事業所税	225	240
未払賞与	7,785	-
販売促進引当金	14,712	17,225
その他	434	1,894
計	29,672	30,270
繰延税金資産(固定)		
減価償却費	34,233	33,135
資産除去債務	25,345	28,466
減損損失	76,644	119,197
その他有価証券評価差額金	171	847
小計	136,394	181,646
評価性引当額	74,817	92,797
繰延税金資産(固定)計	61,577	88,848

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年1月31日)	当事業年度 (平成30年1月31日)
法定実効税率	32.8%	30.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5	2.5
住民税均等割	8.3	55.4
評価性引当額の増減	9.7	39.3
税率変更による影響	1.4	-
留保金課税	3.8	6.0
その他	0.3	0.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	56.8	134.7

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当社は、店舗の不動産賃貸借契約及び定期借地権契約に基づく退去時における原状回復義務等を資産除去債務として認識しております。

当該資産除去債務に関しては、当該契約に伴う敷金及び保証金が資産に計上されていることから、資産除去債務の負債計上に代えて、敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当事業年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

使用見込期間は、当該契約の契約期間(5年~20年)で見積もっております。

また、前事業年度及び当事業年度において、敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと算定した金額及びその増減額は次のとおりであります。

敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと算定した金額の増減

	前事業年度 (自 平成28年 2月 1日 至 平成29年 1月31日)	当事業年度 (自 平成29年 2月 1日 至 平成30年 1月31日)
期首残高	152,661千円	167,736千円
新規不動産賃貸借契約等に伴う増加額	15,074	12,492
不動産賃貸借契約の解約等に伴う減少額	-	1,339
期末残高	167,736	178,888

なお、賃借資産の使用期間が明確でなく、移転等が予定されていないものについては、資産除去債務を合理的に見積ることが出来ないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

重要性がないため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 平成28年2月1日 至 平成29年1月31日)

当社は飲食事業以外の重要なセグメントがないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)

当社は飲食事業以外の重要なセグメントがないため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 平成28年2月1日 至 平成29年1月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社の事業は、飲食事業以外の重要な事業がないため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載していません。

当事業年度(自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社の事業は、飲食事業以外の重要な事業がないため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載していません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 平成28年2月1日 至 平成29年1月31日)

当社は飲食事業以外の重要なセグメントがないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)

当社は飲食事業以外の重要なセグメントがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度(自 平成28年2月1日 至 平成29年1月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度（自 平成28年 2月 1日 至 平成29年 1月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年 2月 1日 至 平成30年 1月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度（自 平成28年 2月 1日 至 平成29年 1月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年 2月 1日 至 平成30年 1月31日）

該当事項はありません。

（ 1株当たり情報）

前事業年度 （自 平成28年 2月 1日 至 平成29年 1月31日）	当事業年度 （自 平成29年 2月 1日 至 平成30年 1月31日）
1株当たり純資産額 642.20円	1株当たり純資産額 621.04円
1株当たり当期純利益金額 53.22円	1株当たり当期純損失金額（ ） 6.53円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注）1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額（ ）及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （自 平成28年 2月 1日 至 平成29年 1月31日）	当事業年度 （自 平成29年 2月 1日 至 平成30年 1月31日）
当期純利益金額又は当期純損失金額（ ） （千円）	129,532	15,887
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純 損失金額（ ）（千円）	129,532	15,887
期中平均株式数（株）	2,433,777	2,433,777
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額（千円）	-	-
普通株式増加数（株）	-	-
（うち新株予約権）	（-）	（-）
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整 後1株当たり当期純利益金額の算定に含め なかった潜在株式の概要		-

(重要な後発事象)

(取締役に対する業績連動型株式報酬制度の導入)

当社は、平成30年4月2日開催の取締役会において、当社の取締役(監査等委員である取締役及びそれ以外の取締役のうち社外取締役であるものを除きます。以下「取締役」といいます。)に対する新たな業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(BBT(=Board Benefit Trust))」(以下「本制度」といいます。)を導入することを決議し、本制度に関する議案が平成30年4月26日開催の第25回定時株主総会において承認されました。

#### 1. 本制度の導入目的等

本制度は、取締役の報酬と当社の業績及び株式価値との連動性をより明確にし、取締役が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落リスクまでも株主の皆様と共有することで、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的としております。

#### 2. 本制度の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託(以下、本制度に基づき制定される信託を「本信託」といいます。)を通じて取得され、取締役に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭(以下、「当社株式等」といいます。)が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。なお、取締役が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役の退任時となります。

##### 「本信託の概要」

名称	株式給付信託(BBT)
委託者	当社
受託者	みずほ信託銀行株式会社 (再信託受託者:資産管理サービス信託銀行株式会社)
受益者	取締役を退任した者のうち役員株式給付規程に定める受益者要件を満たす者
信託管理人	当社と利害関係のない第三者を選定する予定
信託の種類	金銭信託以外の金銭の信託(他益信託)
本信託契約の締結日	平成30年6月(予定)
金銭を信託する日	平成30年6月(予定)
信託の期間	平成30年6月(予定)から信託が終了するまで (特定の終了期日は定めず、本制度が継続する限り信託は継続します。)
議決権行使	行使しないものといたします
取得株式の種類	当社普通株式
信託金額	65百万円(予定)(当初信託期間)



【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残 高(千円)
有形固定資産							
建物	5,017,281	435,236	239,850 (161,021)	5,212,666	3,083,127	240,452	2,129,539
構築物	1,205,657	74,911	28,869 (21,442)	1,251,699	834,749	61,772	416,949
機械及び装置	178,339	28,624	9,429 (6,732)	197,534	111,017	27,677	86,517
車両運搬具	10,935	1,834	541	12,228	11,372	5,381	855
工具、器具及び備品	183,965	106,143	11,136 (6,096)	278,972	160,757	58,946	118,215
土地	369,453	-	-	369,453	-	-	369,453
リース資産	310,404	-	294,241 (5)	16,163	8,944	4,147	7,219
建設仮勘定	31,157	8,368	31,140	8,385	-	-	8,385
有形固定資産計	7,307,195	655,118	615,210 (195,297)	7,347,103	4,209,968	398,378	3,137,135
無形固定資産							
借地権	-	7,145	-	7,145	-	-	7,145
電話加入権	3,481	-	-	3,481	-	-	3,481
ソフトウェア	20,723	9,409	13,281	16,852	6,245	2,468	10,606
リース資産	1,987	-	-	1,987	1,789	397	198
無形固定資産計	26,192	16,554	13,281	29,466	8,034	2,866	21,431
長期前払費用	140,869	57,261	45,577	152,553	57,403	38,487	95,149

(注) 1. 当期増減額のうち主なものは次のとおりであります。

建	物	新規出店(10店舗)に伴う増加	325,166千円							
		閉店・改装等による減少	78,829千円							
構	築	物	新規出店(9店舗)に伴う増加	51,455千円						
機	械	及	び	装	置	新規出店(10店舗)に伴う増加	19,303千円			
工	具	、	器	具	及	び	備	品	新規出店(10店舗)に伴う増加	16,013千円
リ	ー	ス	資	産	リース期間満了による減少	294,236千円				
建	設	仮	勘	定	新店等完成による振替	31,140千円				

2. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで減損損失の計上額であります。

【社債明細表】

銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限
第3回無担保社債	平成26年7月31日	75,000 (30,000)	45,000 (30,000)	0.13	なし	平成31年7月31日
第4回無担保社債	平成26年8月29日	150,000	150,000	0.40	なし	平成31年8月29日
第5回無担保社債	平成27年7月31日	150,000	150,000	0.40	なし	平成32年7月31日
第6回無担保社債	平成28年6月30日	200,000	200,000	0.30	なし	平成33年6月30日
第7回無担保社債	平成29年3月31日	-	180,000 (40,000)	0.31	なし	平成34年3月31日
第8回無担保社債	平成29年7月31日	-	135,000 (30,000)	0.22	なし	平成34年7月29日
計	-	575,000 (30,000)	860,000 (100,000)	-	-	-

(注) 1. ( )内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年 以内 (千円)	2年超3年 以内 (千円)	3年超4年 以内 (千円)	4年超5年 以内 (千円)
100,000	235,000	220,000	270,000	35,000

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	50,000	30,000	1.21	-
1年以内に返済予定の長期借入金	647,134	653,480	1.51	-
1年以内に返済予定のリース債務	4,021	2,827	4.07	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,227,900	1,181,074	1.41	平成31年~34年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	7,550	4,723	5.27	平成31年~33年
その他有利子負債				
1年以内に返済予定の長期未払金 (割賦)	15,520	29,744	1.57	-
長期未払金(割賦)(1年以内に返済予定のものを除く。)	45,815	79,145	1.57	平成31年~34年
計	1,997,941	1,980,995	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金、リース債務及び長期未払金(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	519,254	400,812	214,482	46,526
リース債務	2,069	1,972	681	-
長期未払金	30,099	24,863	18,788	5,395

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
販売促進引当金	48,000	56,200	48,000	-	56,200
店舗閉鎖損失当金	-	4,543	-	-	4,543

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が財務諸表等規則第8条の28に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	
現金	89,647
小口現金	4,610
小計	94,258
預金	
普通預金	499,477
積立預金	141,029
小計	640,507
合計	734,766

## 売掛金

相手先	金額(千円)
(株)コメダ	1,121
その他	2,341
合計	3,462

## 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} - \frac{(B)}{365}$
1,553	27,420	25,511	3,462	88.0	33

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

## 店舗食材

品目	金額(千円)
豚骨・豚肉	218,577
調味料・加工食材	44,372
麺	3,066
その他	102,841
合計	368,858

貯蔵品

品目	金額(千円)
食器・厨房用品	11,637
衛生消耗品・洗剤	8,478
ユニフォーム	7,021
その他	5,290
合計	32,428

敷金保証金

相手先	金額(千円)
大和リース(株)	31,417
オリックス(株)	18,184
(株)菊良ビル	16,300
(有)昭和自動車	15,615
ダイワロイヤル(株)	15,164
その他	518,099
合計	614,781

買掛金

相手先	金額(千円)
双日食料(株)	38,288
大橋製麺所販売(株)	33,449
(株)三和	31,831
和弘食品(株)	27,339
カネジン食品(株)	25,343
その他	121,110
合計	277,363

未払金

区分	金額(千円)
未払給与	355,806
その他	262,819
合計	618,625

(3)【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高(千円)	2,863,205	5,775,034	8,851,657	12,134,238
税引前四半期(当期)純利益 金額又は税引前四半期純利益 金額( )(千円)	2,837	35,820	14,472	45,745
四半期(当期)純損失金額 ( )(千円)	9,337	39,241	10,214	15,887
1株当たり四半期(当期)純 損失金額( )(円)	3.84	16.12	4.20	6.53

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失 金額( )(円)	3.84	12.29	11.93	2.33

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	2月1日から1月31日まで
定時株主総会	4月中
基準日	1月31日
剰余金の配当の基準日	1月31日 7月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	-
株主名簿管理人	-
取次所	-
買取手数料	-
公告掲載方法	電子公告。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	該当事項はありません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第24期）（自 平成28年2月1日 至 平成29年1月31日）平成29年4月28日北海道財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年4月28日北海道財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第25期第1四半期）（自 平成29年2月1日 至 平成29年4月30日）平成29年6月14日北海道財務局長に提出。

（第25期第2四半期）（自 平成29年5月1日 至 平成29年7月31日）平成29年9月14日北海道財務局長に提出。

（第25期第3四半期）（自 平成29年8月1日 至 平成29年10月31日）平成29年12月14日北海道財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

平成29年5月1日北海道財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年4月26日

株式会社丸千代山岡家

取締役会 御中

### 清明監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 島貫 幸治 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 北倉 隆一 印

#### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社丸千代山岡家の平成29年2月1日から平成30年1月31日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社丸千代山岡家の平成30年1月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社丸千代山岡家の平成30年1月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社丸千代山岡家が平成30年1月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。